

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第 8 条第 1 項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加茂高等学校 学校運営協議会 (第 3 回)
- 2 開催日時 令和 8 年 2 月 3 日 (火) 13:00~15:00
- 3 開催場所 加茂高等学校仮設校舎 2 階会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-------|-----------|-----------------------|
| 会 長 | 川 合 俊 治 | 全日制 PTA 会長 |
| 副 会 長 | 松 井 彰 良 | ウインズコーポレーション 代表取締役 |
| 委 員 | 今 井 一 彦 | 司法書士 |
| | 尾 関 里 佳 | 地域代表 |
| | 長 瀬 美 佳 | 定時制教育振興会長 |
| | 松 尾 和 樹 | 可児市議会議員 NPO 法人縁塾 (欠席) |
| | 武 市 由 紀 子 | 元特別支援学校校長 |
| 学 校 側 | 関 谷 篤 | 校長 |
| | 西 田 智 子 | 副校長 |
| | 佐 藤 智 子 | 事務部長 |
| | 庄 司 幸 宏 | 教頭 |
| | 若 狭 幹 大 | 教頭 |
| | 津 田 健 介 | 教務主任 (全日制) |
| | 服 部 達 哉 | 教務主任 (定時制) |
| | 水 口 智 人 | 生徒指導主事 (全日制) |
| | 武 藤 秀 彦 | 生徒指導主事 (定時制) |
| | 上 野 智 子 | 進路指導主事 (全日制) |
| | 渡 辺 純 也 | 進路指導主事 (定時制) |
| | 山 本 僚 郎 | 特別活動部長 (全日制) |

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 全日制 令和 7 年度学校教育目標と年間反省について

質問 1 : 文理探究科を簡潔に説明すると、どのようなイメージになるか。

- ⇒ 文理探究科は、学科改編により名称は変更されたが、教育の基本的な方向性はこれまでと同様に大学進学を目指す普通科高校である。
本学科は、令和 4 年度から文部科学省が進める「高等学校普通科改革」に基づき設置されたもので、従来の「普通科」に加えて新たに認められた 4 類型のうち「その他の普通科」に位置付けられている。その特徴は、探究的な学習の時間が従来の普通科より多く設定されている点にある。

質問 2 : 文理探究科がスタートし、どのような変化があったのか。

- ⇒ 学科の目的や学びの内容について、これまで以上に丁寧な説明が大切になった。そのため、中学校への説明や外部への情報発信に力を入れるとともに、先進校の視察なども行いながら教員間の共通理解を深めている。
校内においては、教員自身も探究的な学びの在り方について学び続けており、生徒とともに試行錯誤しながら授業や活動を進めている。教員が一方的に教えるのではなく、生徒の探究に伴走する姿勢が、これまで以上に重視されるようになった点が大きな変化である。

質問 3 : 今年度から導入した学習支援アプリ「Classi」を、どのように活用し、生徒の学びにどのようにつなげているのか。

⇒ **Classi** は、生徒の学習状況を可視化し、日々の学びを支援するツールとして活用している。具体的には、生徒が自身の学習時間を記録することで学習習慣の定着を図るとともに、教員との連絡ややり取りにも活用している。
また、ポートフォリオ機能を通して、生徒が学びの過程や成果を振り返る機会を設けているほか、学習ドリル機能を活用した基礎・基本の定着や学び直しにもつなげている。これらの取組により、生徒が自らの学習を意識し、主体的に学びに向かう姿勢の育成を目指している。

意見 1：学習においては ICT や AI の活用が進む一方で、対話を通して初めて得られる学びもある。鉛筆やシャープペンシルで書いて覚えるなど、アナログな学習の大切さは今後とも失われることはないと考えており、そうした学びを大切にしてほしい。

意見 2：文理探究科という特色を生かし、地域との関わりをさらに深めていくことが重要である。例えば、ボート部が地域の方々と協力して行った漕艇場の竹林伐採のように、地域資源を活用した取組を通して、地元の方々と触れ合う機会を今後も大切にほしい。あわせて、地域の行事やイベントへの参加などを通じて、生徒が社会とのつながりを実感できる学びを一層推進していくことを期待している。

(2) 定時制 令和 7 年度学校教育目標と年間反省について

意見 1：教育相談体制が充実しており、生徒が教員だけでなく、スクールカウンセラーに話を聞いてもらうことで安心感を得ている点が評価できる。実際に、悩みを聞いてもらうことで気持ちが整理され、課題が解消されている。
一方で、卒業後に自分がどのように進んでいけばよいのか分からず、不安を抱える生徒も少なくない。高校在学中に、自分自身をよく知り、課題への向き合い方や解決方法を見いだせるような取組が、より一層重要であると感じている。

意見 2：学習指導の面では、学習規律の確立や基礎学力（漢字や四則計算）の充実を図るとともに、自分の考えを発表する場面を意図的に多く設けている点を評価したい。
人前で話すことが苦手な生徒も多いが、高校卒業後は自分の考えを伝える場面が増えることから、今後もこうした機会を継続的に増やしていくことが重要である。

意見 3：生徒の自発性を育て、「指示待ち」の姿勢からの脱却を期待している。働き方や生き方についても多様な在り方を示しながら指導を進めてほしい。

6 会議のまとめ

本協議会での質問・意見を踏まえ、文理探究科については、名称変更後も「大学進学を目指す普通科」であること、あわせて探究的な学びに力を入れている学科であることが、より正確に伝わるよう、次年度は中学校や地域への説明・情報発信を一層丁寧に行っていく。

また、教員が生徒の探究に伴走する姿勢を大切にし、校内研修や先進事例の共有を通して、授業改善と指導力の向上を図る。**Classi** 等の ICT については、学習の可視化や振り返り、基礎学力の定着・学び直しに引き続き活用するとともに、対話や手書きによる学びなど、アナログの良さも生かした指導を進めていく。

地域資源を活用した探究活動や地域行事への参加を通して、社会とのつながりを実感できる学びを推進する。定時制課程においては、教育相談体制の強みを生かしながら、自己理解や進路意識の育成、基礎学力の定着、自発性の向上に引き続き取り組む。

さらに、次年度の BYOD 導入を見据え、全日制・定時制ともに、授業におけるタブレット端末の効果的な活用について、職員が継続的に研鑽を重ね、学びの質の向上につなげていく。